

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人
第5学年	国語	44人	算数	44人	理科	44人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

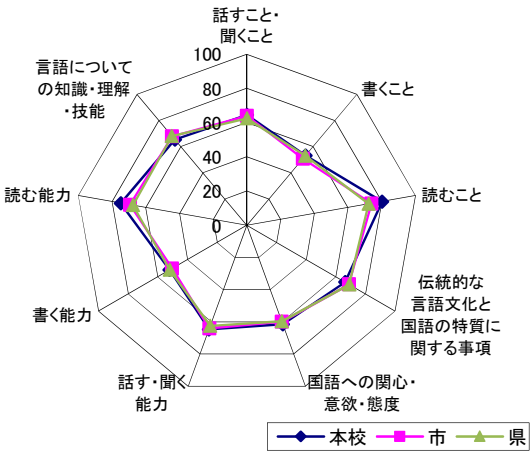
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.6	64.0	62.5
	書くこと	53.3	50.9	53.1
	読むこと	80.3	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.3	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	61.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	64.6	64.0	62.5
	書く能力	52.1	50.4	52.0
	読む能力	74.8	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	65.4	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

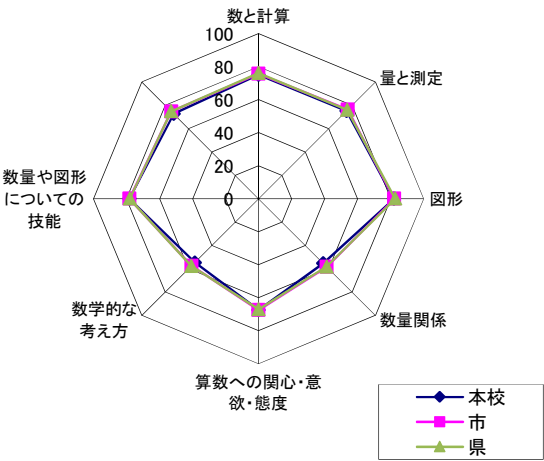
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体の正答率では、64.6%と県や市の平均を上回っている。特に、「話し方の工夫に注意して聞き取る」では、平均正答率が、市の平均より7.6ポイント上回っている。 ●「話題に沿った意見と理由を考えて話す」では、市の平均を3.1ポイント下回っているが、正しく理解している児童が多く、聞き方、話し方の基礎的な理解に差がある状況である。	・話し方のポイントを発達段階に応じて指導していき、定着を図る。 ・話し合いの機会を設けることで、意見をもつことやその根拠や理由を考えて話す習慣を身に付けるようにする。
書くこと	○全体の平均正答率は、53.3%と市の平均を1.7ポイント上回っている。特に「指定された長さで文章を書く」では約12ポイント市の平均を上回っている。 ●「中心を明確にして文章を書く」では市の平均より1.3ポイント、「理由や事例を挙げて文章を書く」は市の平均より1ポイント下回っているが、基本的な文章の書き方の理解に大きな差がある状況である。	・複数の条件から情報を整理して、適切な言葉を考える力を身に付けさせるとともに、他教科と関連させて繰り返し指導していく。 ・自分の考えや感想などの意見を文章で表現する機会を多く設け、書く力を更に高めていく。
読むこと	○全体の平均正答率は、80.3%と県や市の平均を6.4ポイント上回っている。特に「物語の内容を読み取る」「文章の内容を読み取る問題」では、市の平均より約6～10ポイント上回っている。 ●「段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ることができる」では、市の平均を上回っているが、段落ごとに読み取ることは定着が十分とは言えない。	・授業では、読解の手掛かりになるような語句を自分で見付けられるようにするため、指示語や文脈に気を付けて読む指導を継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みは、全ての問題で平均正答率が85%を超えており、ほとんどの児童が理解していると言える。 ●漢字の読み書きでは、正答率が90%以上の問題もあれば「農業」は正答率が30%以下と低かった問題もあるので、文字によって定着の差があると言える。また、文の構成では、主語述語の理解が4割以下と定着が十分とは言えない。	・普段から文章を書くときは既習の漢字を使うように指導し、3年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。 ・授業だけでなく、短文づくりや日記を通して、言葉の特徴や決まりが定着するよう繰り返し指導していく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.2	75.8	76.1
	量と測定	75.4	76.5	76.0
	図形	82.0	82.1	82.7
	数量関係	55.4	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	67.4	67.4	67.0
	数学的な考え方	54.7	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	78.3	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	72.8	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

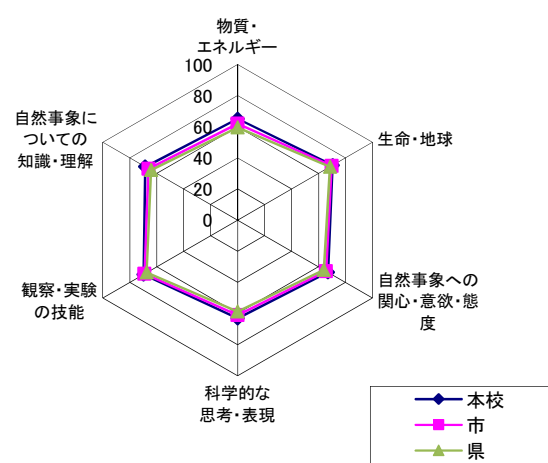
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、75.2%で、市の平均とほぼ同じである。 ○2けた÷1けたの計算は、正答率90%を超え、市の平均正答率よりも高い。 ●「3位数÷3位数＝4位数」の繰り上がりの計算では、正答率が75%を切り、市の平均より8ポイント低くなっている。また、「3位数÷3位数＝3位数」の計算は、市の平均正答率より5ポイント高い。 ●分数の数直線上の表し方の問題では、約60%となっており、市の平均より7ポイント低くなっている。	・さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正解を意識した取り組みや間違った問題の分析を自分で行わせる。 ・四則計算などの計算力に正確さが十分身に付いていないので、小テストやステップアップシートなどを活用して、正確に計算できる力を身に付けられるようにする。 ・計算力に個人差が見られるので、四則計算など算数の基礎基本となる力は、習熟度別学習などの学習形態を工夫していく。また、発展問題を取り入れ、意欲的に取り組める内容を設定することで、定着を図る。 ・普段の授業において、数直線を用いた問題を多く取り入れ、定着を図る。
量と測定	●平均正答率は75.4%で市の平均より下回っている。 ○「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題」では、正答率が86.9%と市の平均を約5ポイント上回っている。 ●はかりの目盛りの読み方の問題では、70.5%と市の平均より約6ポイント下回っている。	・日常生活の中で、時刻と時間の概念を十分身に付けられるように、意図的に声かけをするとともに、今後も時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、習熟を図る。 ・重さや長さの問題でも日常生活の中で体感したり、予測したりする経験を増やす。 ・目盛りを読む経験を増やすとともに、1目盛りがいくつになるのか考えられるようにする。
図形	○平均正答率は82.0%と、市の平均とほぼ同じである。 ○正三角形を作図する問題では、90%を超え、市の平均を上回っている。 ●円の直径を求める問題では、半径と直径の意味を誤答している児童が見られる。	・円や三角形については半径や直径など、基礎的な用語や意味をおさえ、プリントやドリルを活用して復習する機会を積極的に設ける。また、日常生活場面において、確認したり、活用したりする場を意図的に設け、数学的な思考力を育むようにする。 ・活用問題についてはその解答の方法に慣れるように、単元の終わりなどに計画的に組み入れていく必要がある。 ・基本的事項の確認を定期的に行い、定着を図る。
数量関係	○平均正答率は、55.4%と市の平均を下回った。 ○「お話」を読んで、□を使って減法の式を表す問題では、市の平均を若干上回る正答率であった。 ●□をつかった文章問題を表した図の構造を選ぶ問題では、72.1%と、市の平均を12ポイント下回った。	・問題場面の、分かっている数と求めている数をどのように表すのか考えさせながら、図に表すようにする指導を行う。 ・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・資料の読み取りなどについては、さらなる定着を図るために、算数の時間だけでなく、社会や総合的な学習の時間等、他教科とも連携し、いろいろなグラフから考えられることを読み取る習慣をつけ、それらを意見交換する機会を設けていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.1	61.9	59.4
	生命・地球	70.4	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.9	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	63.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	69.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	68.6	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○全体的な状況としては、県や市の平均正答率を上回っている。 ○「光の性質」における設問では、正答率が高い。体験的な学習を十分行ったことが理解につながったと思われる。 ●「電気の通り道」での発展的な問題については、県の平均正答率は超えているものの、34%の正答率となり、身近な事象と学習内容が結びついていないことが伺える。	・理科で学習したことで、身近な事象を関連づけたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるよう働きかける。 ・興味を深めるために、実生活の中で理科の知識が生かされている例などを紹介するよう心がける。
生命・地球	○全体的な状況としては、県や市の平均正答率を上回っている。 ○体験的な学習内容については十分理解が図れていた。実際に用具を操作したり、昆虫の世話をしたりといった活動が生かされている。 ●「ホウセンカの育ち方」の設問において、小さな種のまき方への正答率が30%台で低かった。 ○「太陽とかげの動き」については、知識と実際の太陽の動き・方角が結びついていないことが伺えた。 ●「植物の育ち方」においては、育ち方の順序に正答率が低いところが見られた。「かれる」というのが植物のどういう状態かを把握していないように思われる。	・小さな種の場合と一般的な種の比較に気を付けさせ、土に穴をあけないことに留意させたい。 ・設問と資料を多面的に結びつけることや、実験で得られた結果を、自分の言葉で考察したりまとめたりする活動を意図的に取り入れていくようにする。 ・植物の育ち方と順序を一般化し、表現を確認しながら指導する必要がある。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習の仕方については、「家で、学校の授業の復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」の肯定的回答はそれぞれ72.1%、82%と、市の肯定割合を10ポイント以上上回っている。良い習慣がついているので、今後も家庭と連携し、家庭学習の習慣作りを徹底していきたい。

○児童は、「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定的回答が約95.1%、「自分は家族の大切な一員だと思う」91.8%と、周囲から認められ、「自分にはよいところがある」88.6%、「毎日の生活がじゅう実していると感じている」91.8%と、市の平均と比べて、高い肯定的回答率である。児童は、学校や家庭でコミュニケーションを密にとり、よいところを認め励まして育てられているので、自己有用感が高いと考えられる。今後も家庭と連携して、児童のより良い成長を目指したい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答が88.1%、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」の肯定的回答が90.5%と高い結果であったが、やはり個人差があることは否めない。児童一人一人が興味・関心をもって、楽しみながら前向きに学習に向かっていけるよう、さらに努めていく。

○「学習していて身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答は97.6%、「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答が95.2%と高く、学習とこれからの自分の将来を関連付けて考えている児童が多い。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」では、95.2%の児童が肯定的回答をしており、基礎体験を通して自分の仕事に責任をもっている児童が多いことがうかがえる。

●「自分はクラスの役に立っていると思う」や「自分は勉強ができるほうだと思う」については、ともに66.7%と決して高い値ではなかった。今後、一人一人を認め励まし、「できる」や「できるようになってきた」という気持ちをもたせられるように指導に努めていく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答が50%と低く、本やインターネットを正しく使って学習を進められるよう、情報教育を通して学習スキルを身に付けさせたい。

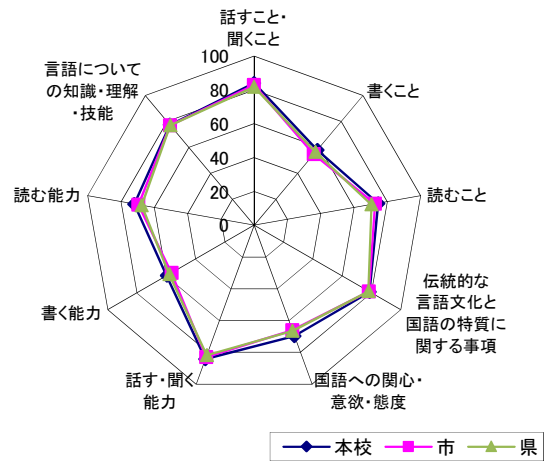
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の肯定的回答が57.1%と低い。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答も61.9%と低い。この2つの項目については、関連性があると思われる。授業を通して、自分の考えや意見を明確に書けるように支援し、自信をもって発表できる児童を育てていきたい。ただし、人と話すことは楽しいと答えている児童は97.6%と高く、友達としっかりコミュニケーションがとれ、豊かな心を育むことができていると思われる。

●「クラスは話しやすい雰囲気だ」や「授業では、クラスの友達と話し合う活動をよく行っている」「分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に対しては、平均して90%の肯定回答率であったが、すべての質問において今回の調査結果で中間層に位置した児童の肯定回答率が、低い値を示していた。これらは因果関係があるものととらえ、今後注意して観察し、適切な支援を行っていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.1	82.9	81.8
	書くこと	58.1	54.8	56.5
	読むこと	74.4	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.9	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	69.7	66.0	66.4
	話す・聞く能力	84.1	82.9	81.8
	書く能力	59.6	56.3	57.9
	読む能力	71.9	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	77.5	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

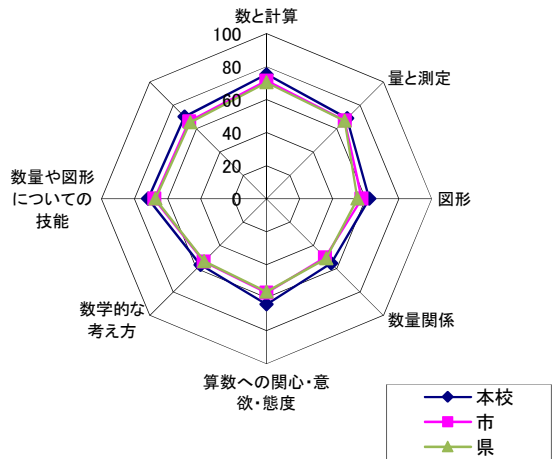
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は84.1%で県や市の平均を上回っている。 ○話し方の工夫に注意して聞き取る問題では、市の平均を4ポイント上回っている。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等において相手の話を集中して聞く習慣をつける。また、話し手の意図をくみ取って聞く力の定着を図る。 ・伝えたいことを分かりやすく表現できる力を高められるようにする。
書くこと	○平均正答率は、58.1%で県や市の平均を上回っている。 ○意見をもとにポスターの文を書いたり、情報を適切に読み取りポスターの文を書いたりする設問では、県や市の平均を6ポイント以上上回っている。 ●「2段落構成で文章を書くことができる。」の設問では、県や市と比べて大きく下回っている。	・与えられた条件を満たして文章を書く練習を今後も続けていきたい。 ・書く学習において、伝えたい内容をまとまりを意識しながら段落に分けて書く練習に取り組ませたい。
読むこと	○平均正答率は、74.4%で県や市の平均を上回っている。 ○文学的文章では、ほとんどの設問において、県や市の平均を上回っている。特に、登場人物の気持ちを読み取る設問においては、正答率が高い。 ●説明的文章では、「段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る」という設問において、県や市の平均を上回っているが、38.6%と低い。	・文学的文章と説明的文章の学習の仕方が違うということを指導する。説明的文章は、書かれていることを正確に読み取るために、指示語や段落どうしのつながりを捉えながら、読解する力を高め、文章の構成や要旨を捉える力を高められるようにする。文学的文章は、情景や登場人物の心情を捉える力を養うよう指導していく。 ・読書を奨励し、いろいろなジャンルの本に親しむ場を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、78.9%で県や市の平均を上回っている。 ○「指示語の使い方を理解している」という設問では、93.2%と正答率が高い。 ●漢字の読みや漢字辞典の使い方についての設問では、県や市の平均正答率を下回ったものもある。	・既習の漢字を日常的に使うよう指導し、復習に力をいれながら確実な定着を図る。 ・漢字辞典を教室に常備するなどして、漢字辞典に触れる機会を増やす。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	71.5	70.4
	量と測定	68.9	67.0	66.9
	図形	62.2	57.6	55.0
	数量関係	55.3	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	64.0	57.0	56.3
	数学的な考え方	56.7	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	71.8	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	70.3	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

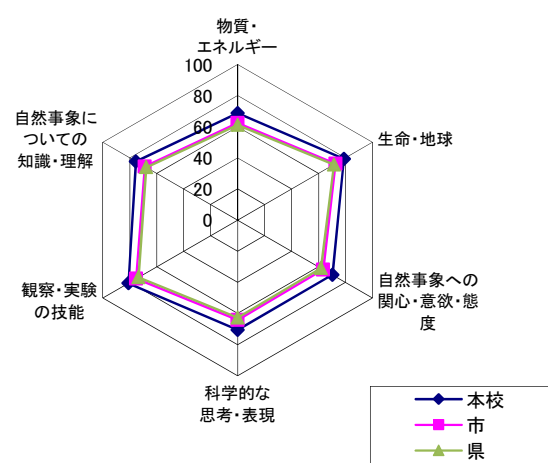
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、75.4%で県や市の平均を上回っている。 ○大きな数の概数の表し方では、正答率が93.2%と市の正答率よりも10ポイント以上上回っている。 ●十進位取り記数法の理解についての問題では、市の平均より6ポイント下回っている。	・全体としては学習内容がよく身に付いているといえる結果ではあるが、さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正確に解こうとする意識をもち、間違った問題の分析を自分で行うなどする。 ・十進法記数位取りについての知識はあるが、問題に対する答え方がわからない児童がいるので、授業では個々に考える場や時間を十分に確保することで、児童が自力で問題を読み解く力をさらに育てる。
量と測定	○平均正答率は、68.9%で、県や市の平均を上回っている。 ○角の大きさの180度より大きい角の大きさを求める問題では、市の平均を33.9ポイント上回っている。 ○複合図形の面積を求める問題では、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ●身近にあるもののおよその面積を求める問題では、市の平均を13ポイント下回っている。	・面積の単位(m^2 , cm^2 , a, ha)の関係を繰り返し復習させ、身近なものの面積や広さの理解の定着を図ったり、おおよその面積を予測したりして量感を身に付けさせる。 ・「複合図形の面積を求める」問題を、プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設け、よりいっそうの習熟を図る。 ・分度器の使い方はほとんどの児童が理解しているが、まだ十分でない児童もいるので、繰り返し活用することで理解を深める。
図形	○平均正答率は62.2%で、県や市の平均を上回っている。 ○ひし形の作図の問題では、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ○四角形の対角線の交わり方から四角形の種類を求める問題では、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ●図形を使った活用問題では、市の正答率を5.9ポイント上回っているが、正答率が21.6%と低く、理解が十分でない。	・文章で書かれた問題を理解する力を養うために、授業などで一斉に問題を確認する前に個人で問題を理解する時間を確保する。 ・図形を使った活用問題を意図的に授業で取り上げ、図形の性質をどのように活用するかの演習を行うことで、問題の解き方や説明の仕方を理解できるようにする。
数量関係	○平均正答率は55.3%と、県や市の平均を上回っている。 ○四則の混じった式の計算順序の問題では、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○二次元表の読み方を理解し、示されたものが表のどこに該当するかを問う問題では、市の正答率を5.3ポイント上回っている。 ●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、市の正答率を8%上回っているが、正答率が27.3%と低く、自分の考えを表現する力が十分でない。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・単元の終わりにある活用問題を丁寧に取り上げることで、活用問題に対する苦手意識を持たないようにする。また、グループ学習などで図や表、グラフ、文章等、多様な表現方法の良さを知り自分に合った表現方法を身に付けられるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.7	62.4	61.1
	生命・地球	78.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.2	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	70.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	81.0	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	75.5	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は68.7%で、県や市の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ○「とじこめた空気や水」に対しての正答率は90%と県の平均を17ポイント上回っている。体験的な学習が生かされている。 ○「水の状態」の設問への正答率は81.8%と県の平均を16ポイント上回っていた。 ●「もののあたため方」において、温められた水の動き方での正答率が県に比べると高いものの、40%台と低かった。 ●「電流」という用語への正答率が47%と低かった。 ●「水の状態」の設問への正答率は県に比べると高いものの47%と低かった。	・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。 ・設問と資料の対応については横断的に丁寧に指導する。また、多くの情報から、必要な情報を読み取る力を見付けられるように日常的に指導する。 ・理科で学習したことで、身近な事象を関連づけたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるよう働きかける。また、興味を深めるために、実生活の中で理科の知識が生かされている例などを紹介するよう心がける。
生命・地球	○平均正答率は78.8%で、市や県の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ●「月の形」の正答率が75%程度と低かった。 ○月の動きと方角への正答率においては、市や県の平均を20ポイント近く上回っていた。 ○筋肉のはたらきへの正答率においては、市や県の平均を13ポイント上回っていた。	・理科で学習したことで、身近な事象を関連づけたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるよう働きかける。また、興味を深めるために、実生活の中で理科の知識が生かされている例などを紹介するよう心がける。 ・観察が難しい夜間の天体の観測屋、身の周りでは見つけられない動植物、人体の内部の組織などについては、デジタル教材等を活用するなど教材を工夫していく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○どの項目においても、肯定的回答が高く、多くの設問で県や市の平均を上回っている。
 ○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答が93.2%と高く、県や市の平均より10ポイント前後上回っている。家庭でも自己肯定感が高まる声掛けをしていただいていることがわかる。また「家の人と将来について話すことができる」も、84.1%と県や市の平均を10ポイント以上上回っている。今後も家庭と連携し、現在の活動が今後の自分に生きてくることを、人とかかわりの中から体験できるようにしていきたい。
 ○「ニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的回答が、市の平均を8ポイント以上上回っており、社会人としての自覚の芽生えがあると思われる。今後も、学校生活・学校行事や地域の行事を通して、集団・社会と積極的に関わりをもとうとする態度を育んでいきたい。
 ○授業中の発表・発言についての設問の肯定的回答が高く、86%を上回るものもある。また、「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という設問では、93.2%の児童が肯定的に回答している。今後も、気付いたことを発表する場を設定し、互いに学び合い、高め合えるよう学級づくりに努めていく。
 ○「家庭学習力」においては、多くの設問で県や市の平均を上回っており、「家で、学校の予習をしている」は63.6%、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」は70.5%と肯定的回答が特に高い。学校と家庭の連携から定着していることがうかがえる。
 ●「難しい問題に出会うと、よりやる気がでる」の肯定的回答は65.9%と県や市の平均よりも高い値が出たが、昨年度の結果を下回っている。このことから、学習だけに限らず、学校・学級内で役割をもたせたり、粘り強く取り組む姿勢を身に付けたりできるようにしていく。また、家庭との連携を深め、認め励ます支援をして児童のよさや自分を認める力を高めていきたい。
 ●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は77.3%と、県や市の平均をやや下回っている。一方「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定的回答は93.2%で、県や市の平均を上回っている。この二つのことから、今まで通り授業の目標を児童に示すとともに、授業の最後に、授業内容が定着できるような振り返りの場を設定し、よりよい授業づくりにいかしていきたい。
 ●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」という設問では54.5%と、県や市の平均を下回っている。国語のテスト結果の分析からも与えられた条件の中で文章を書くことが苦手という結果が出ているので、自分の考えをまとまりをもって文章に書けるように、今後も、授業中や家庭学習等で支援していきたい。

宇都宮市立昭和小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返りの充実	授業において認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自らのよさへの自覚を深められるようにする。	「振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が、4年生は77%、5年生は77.3%と高くなっているが、話し合いを通じて考えを深めることや、自分の考えを発表することについては、5年生では肯定的回答が高いが、4年生はそれよりもやや低い。今後も、振り返り活動を継続するとともに、方法や内容の充実を図っていく。
主体的な家庭学習の習慣作り	学校全体の学力アップ月間を設け、家庭学習の充実を含めて家庭にも啓発資料などを作成し、協力を呼びかける。	「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が、4年生は75.4%、5年生は84.1%と高くなっている。また、「決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答が、5年生は県・市より高く、学年が上がるごとに、徐々に意欲も高まっていると考えられるので、質や内容の充実を図っていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
書く力の向上	情報を整理しながら条件に応じた文章を書く場の設定	学年に応じて、学習した文章の構成や言葉の選択などを、自分の文章にも表すことができるよう書く活動を取り入れていく。また、学習の振り返りの時間に、キーワードや条件などを設定して書くようにしたり、児童の振り返りを紹介したりして、書く内容の充実を図る。
相手の話や文章に対して、自分の考えをもち表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動や場の設定の工夫	話を聞いたり文章を読んだりする際に、考え方や聞き方の方法(比較しながら聞く、考えを友達と共有する)を意識的に指導し、自分の考えとつなげて考える機会を設けるようにする。